

2006年3月期 中間決算説明会



2005年 11月 9日

ホームページ: <http://www.yachiyo-ind.co.jp/>

問い合わせ先: 事業管理室 栗原 義弘

e-mail: yoshihiro_kurihara@yachiyo-ind.co.jp

TEL (04)2954-7331

中間決算報告

常務取締役
管理本部長

杉山 幸右

中期経営計画

代表取締役社長

大竹 茂

常務取締役
管理本部長

杉山 幸右

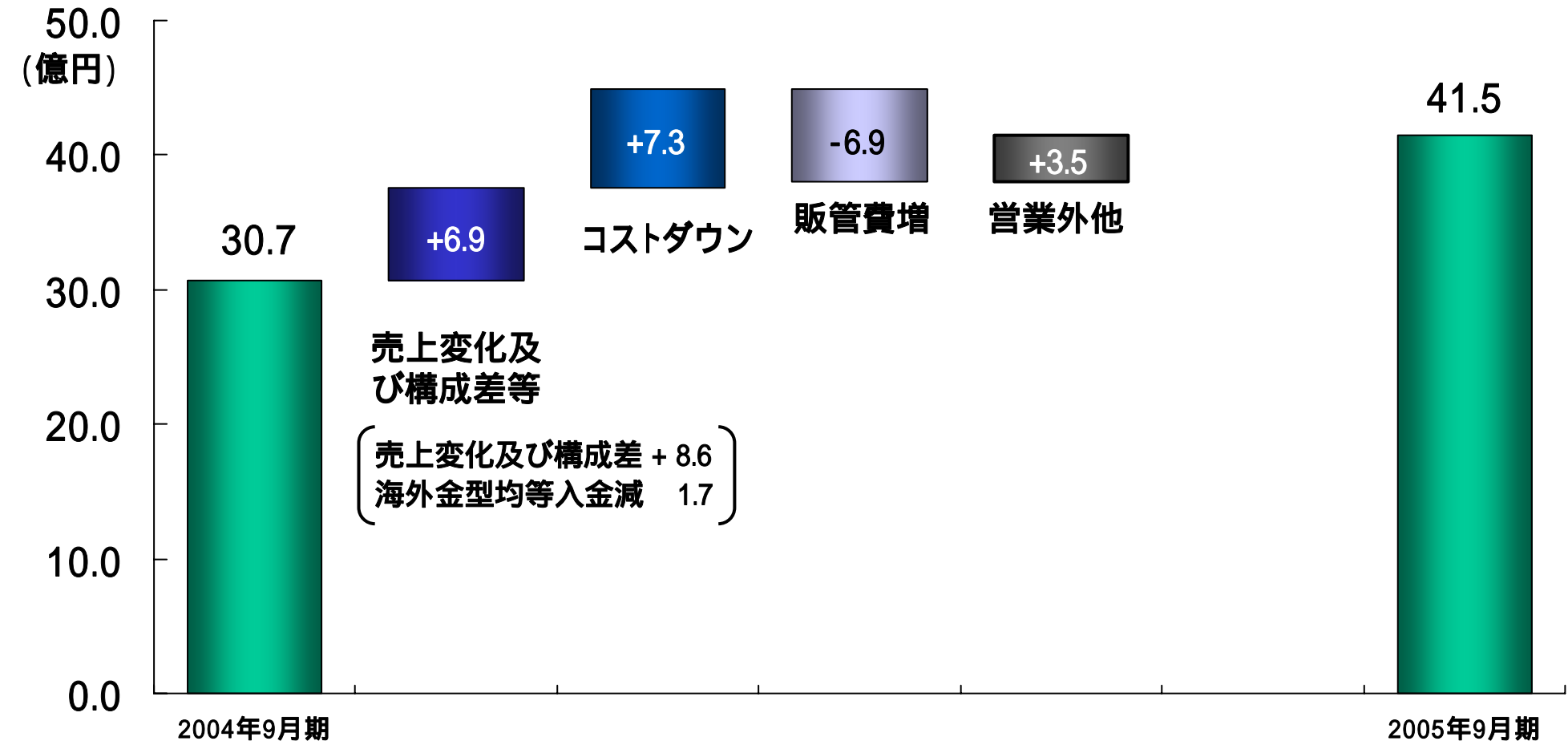
2006年3月期 中間決算報告

- ◆ 連結業績
- ◆ 連結貸借対照表
- ◆ 連結キャッシュフロー
- ◆ 単独業績

	2004年9月	2005年9月	対前年同期比 伸び率	コメント
売上高	1,328億円	1,368億円	+ 2.9%	-
完成車事業	646億円	621億円	- 4.0%	生産台数 5.4千台減
部品事業	682億円	747億円	+ 9.5%	国内生産 増 29.1億円 北米生産 増 21.6億円 アジア生産 増 14.4億円
営業利益 (対売上高比率)	29.4億円 (2.2%)	36.8億円 (2.7%)	+ 25.0%	売上変化及び構成差等 6.9億円 コストダウン 7.3億円 販管費増 -6.9億円
経常利益 (対売上高比率)	30.7億円 (2.3%)	41.5億円 (3.0%)	+ 35.3%	営業利益の増 7.4億円 関連会社持分利益の増 2.3億円 金融収支の改善 1.0億円
当期純利益 (対売上高比率)	15.7億円 (1.2%)	22.6億円 (1.7%)	+ 44.3%	経常利益の増 10.8億円 固定資産除却損の減 1.1億円 利益増に伴う税金の増 -4.3億円 少数株主利益の増 -0.6億円

2005年9月期 経常利益変化 (連結ベース)

売上高	1,328.5	+39.2	1,367.7
(完成車事業)	(646.5)		(620.5)
(部品事業)	(682.0)		(747.2)



売上高

	2004年9月	2005年9月	対前年同期比 伸び率
連結売上高	646億円	621億円	- 4.0%

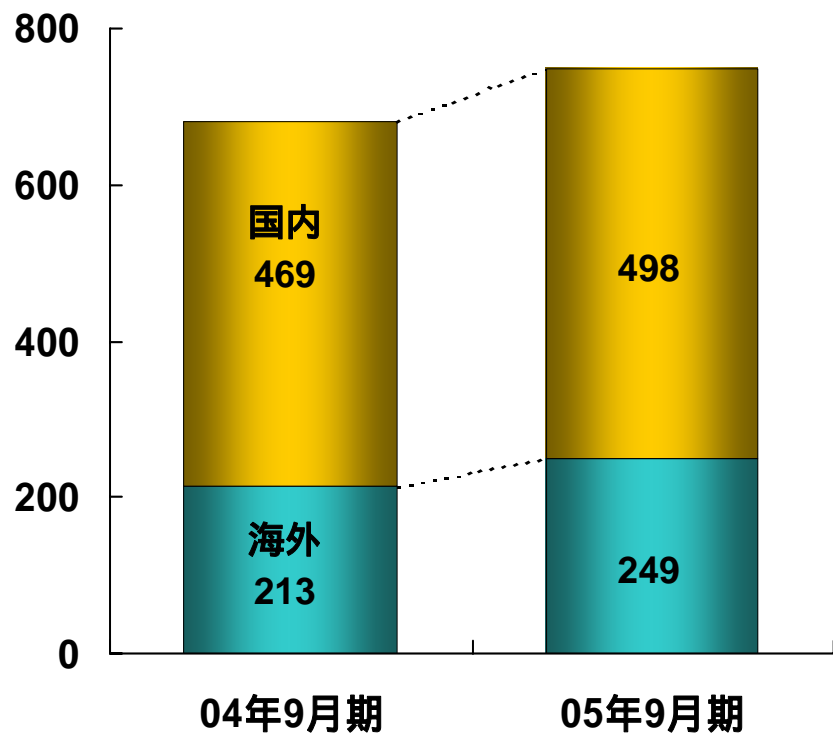
生産台数

	2004年9月	2005年9月	対前年同期比 伸び率
生産台数合計	10.4万台	9.8万台	- 5.2%
ライフ	6.1万台	5.8万台	- 3.5%
アクティ	4.3万台	4.0万台	- 7.6%

売上高	2004年9月	2005年9月	対前年同期比 伸び率
連結売上高	682億円	747億円	+ 9.5%

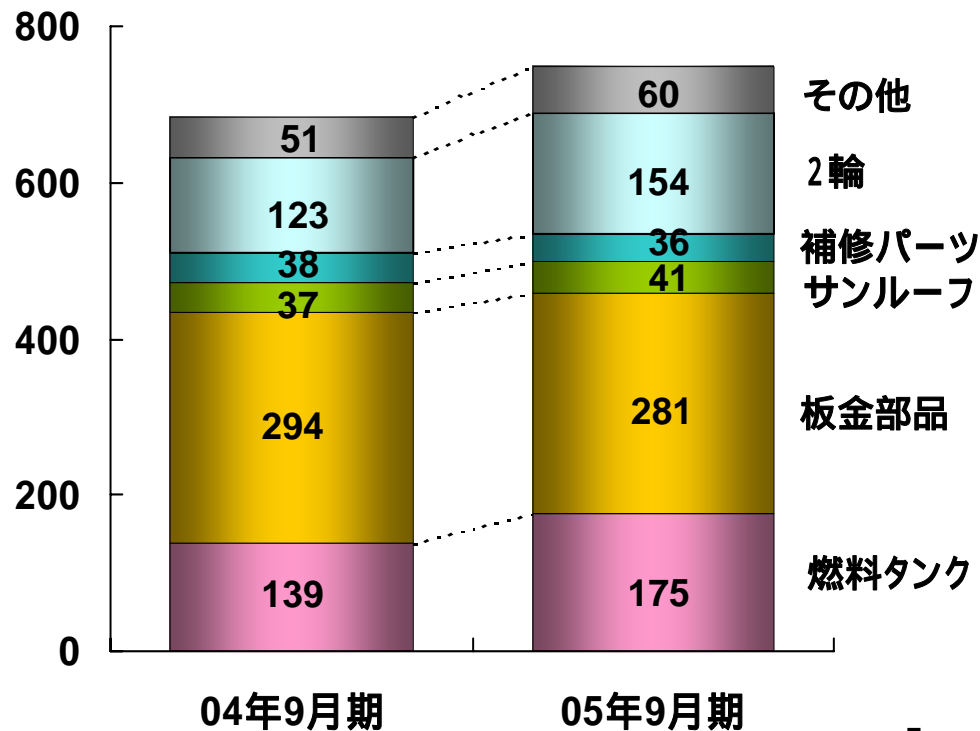
国内 / 海外区分

(売上高:億円)



部品別区分

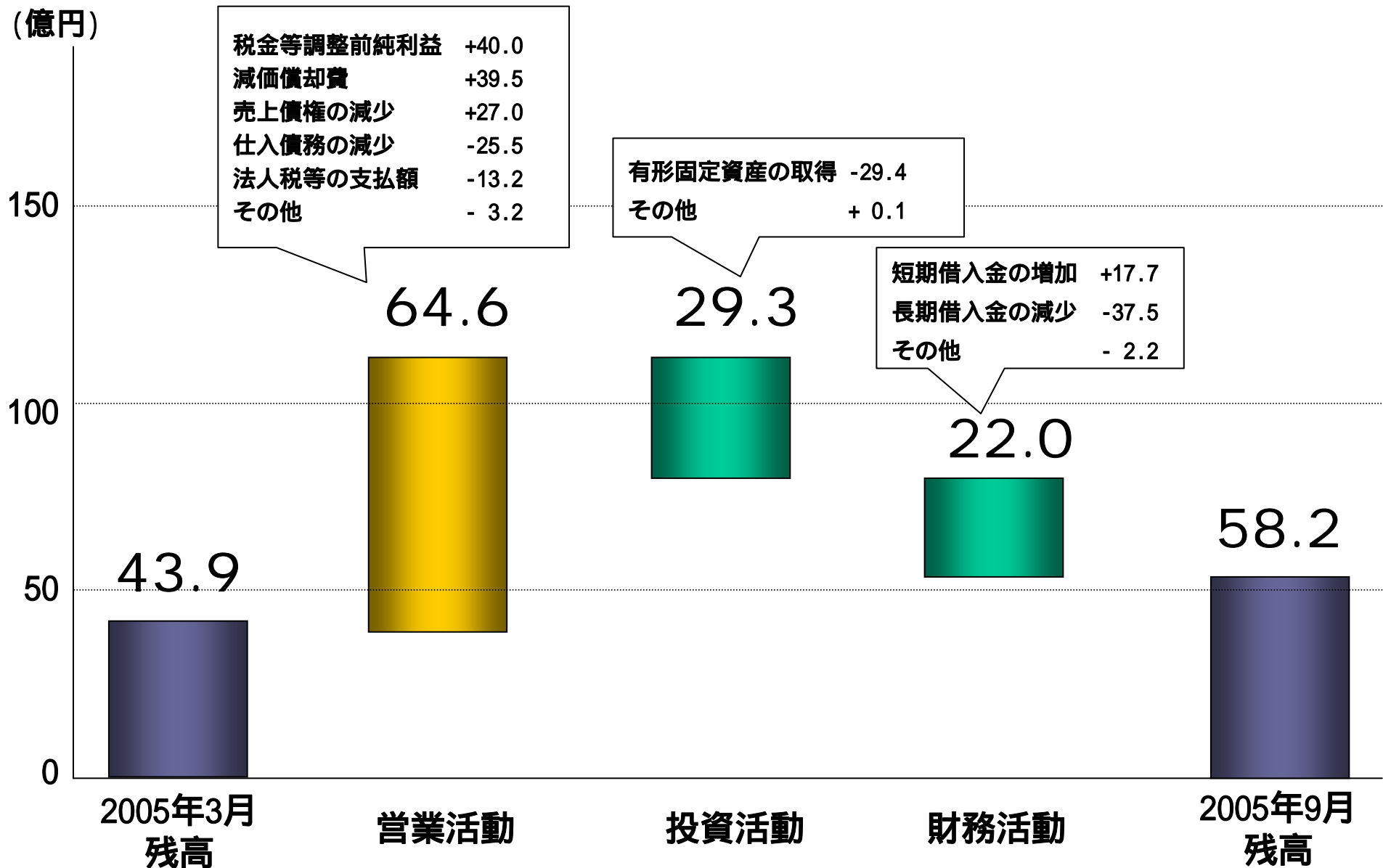
(売上高:億円)



連結貸借対照表

	2005年3月	2005年9月	対前年度 伸び率	コメント
総資産	1,074億円	1,082億円	+ 0.7%	現金及び預金の増 13.9億円 売上債権(主に完成車事業)の減 -24.6億円 在庫(主に売金型)の増 5.8億円 有形固定資産の減 -5.0億円 投資有価証券の増 12.3億円
株主資本	294億円	325億円	+ 10.6%	利益剰余金の増 20.9億円 有価証券評価差額金の増 5.7億円 為替換算調整勘定 4.6億円
有利子負債	296億円	278億円	- 6.1%	-
株主資本比率	27.4%	30.0%	+ 2.6P	-
1株当り 株主資本	1,224円	1,354円	+ 130円	-

連結キャッシュフロー



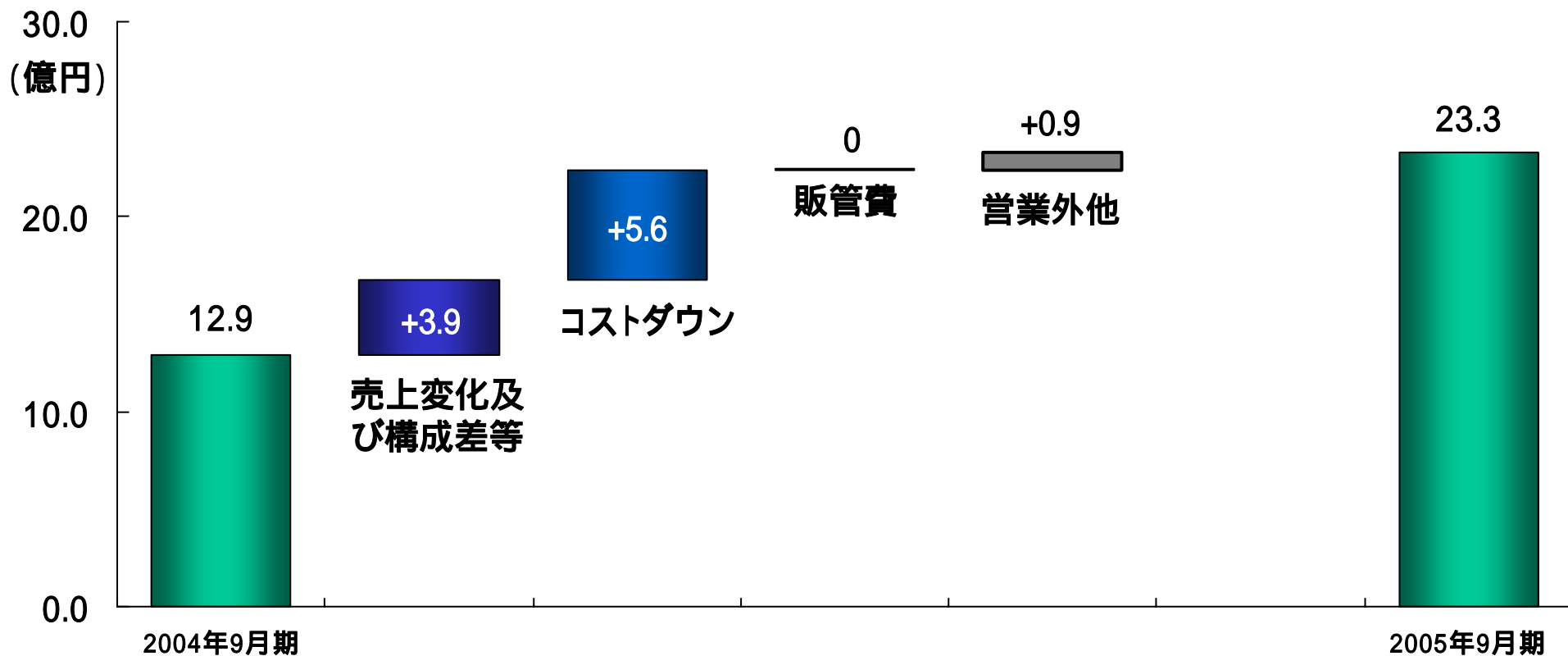
	2004年9月	2005年9月	対前年同期比 伸び率	コメント
売上高	1,082億円	1,085億円	+ 0.3%	完成車事業 620.5億円 部品事業 464.9億円
営業利益 (対売上高比率)	12.5億円 (1.2%)	22.0億円 (2.0%)	+ 75.7%	売上変化及び構成差等 3.9億円 コストダウン 5.6億円
経常利益 (対売上高比率)	12.9億円 (1.2%)	23.3億円 (2.1%)	+ 80.8%	営業利益の増 9.5億円 金融収支の改善 0.9億円
当期純利益 (対売上高比率)	6.9億円 (0.6%)	14.4億円 (1.3%)	+ 109.5%	経常利益の増 10.4億円 固定資産除却損の減 1.2億円 利益増に伴う税金の増 -4.0億円

	2005年3月	2005年9月	対前期末比 伸び率	コメント
総資産	851億円	826億円	- 3.0%	売上債権(主に完成車事業)の減 -30.0億円 有形固定資産の減 -7.8億円 投資有価証券、子会社出資金の減 18.5億円
株主資本	268億円	286億円	+ 6.9%	利益剰余金の増 12.7億円 有価証券評価差額金の増 5.7億円
有利子負債	222億円	211億円	- 4.6%	-

2006年9月期 経常利益変化 (単独ベース)

売上高	1,082.5	+ 2.9	1,085.4
(完成車事業)	(646.5)		(620.5)
(部品事業)	(436.0)		(464.9)

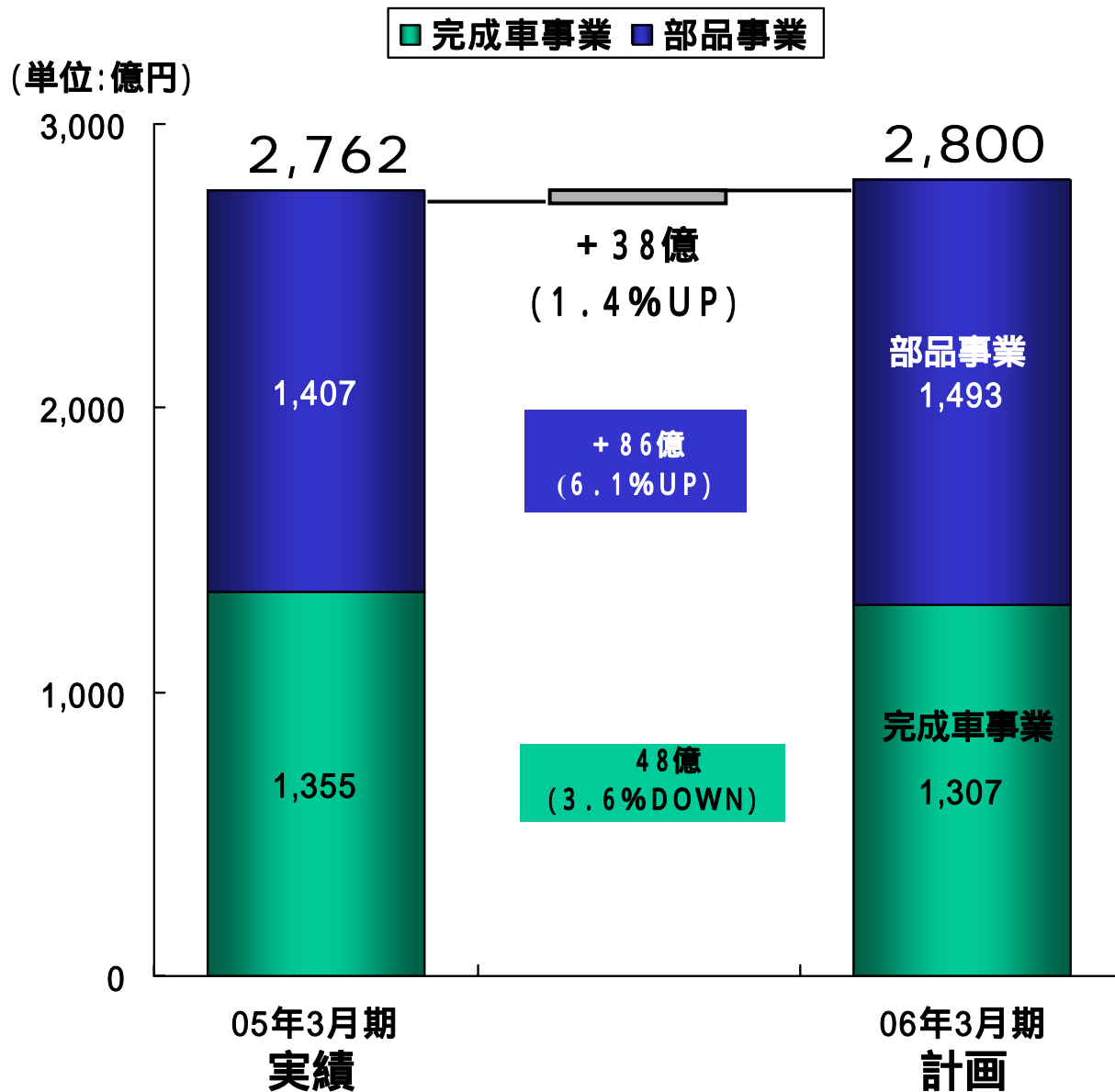
生産台数	600.2千台	+ 2.0千台	602.2千台
(内、完成車事業)	(103.8千台)	(-5.4千台)	(98.4千台)



2006年3月期 決算予想

2006年3月期 連結業績 (予想)

	2005年3月期 実績	2006年3月期 予想	対前年比 伸び率	2006年3月期 期初対発(4/28)
売上高	2,762億円	2,800億円	+ 1.4%	2,770億円
営業利益 (対売上高比率)	58.3億円 (2.1%)	63.5億円 (2.3%)	+ 9.0%	61.0億円 (2.2%)
経常利益 (対売上高比率)	61.3億円 (2.2%)	70.0億円 (2.5%)	+ 14.2%	65.0億円 (2.3%)
当期純利益 (対売上高比率)	33.5億円 (1.2%)	36.0億円 (1.3%)	+ 7.6%	35.0億円 (1.3%)



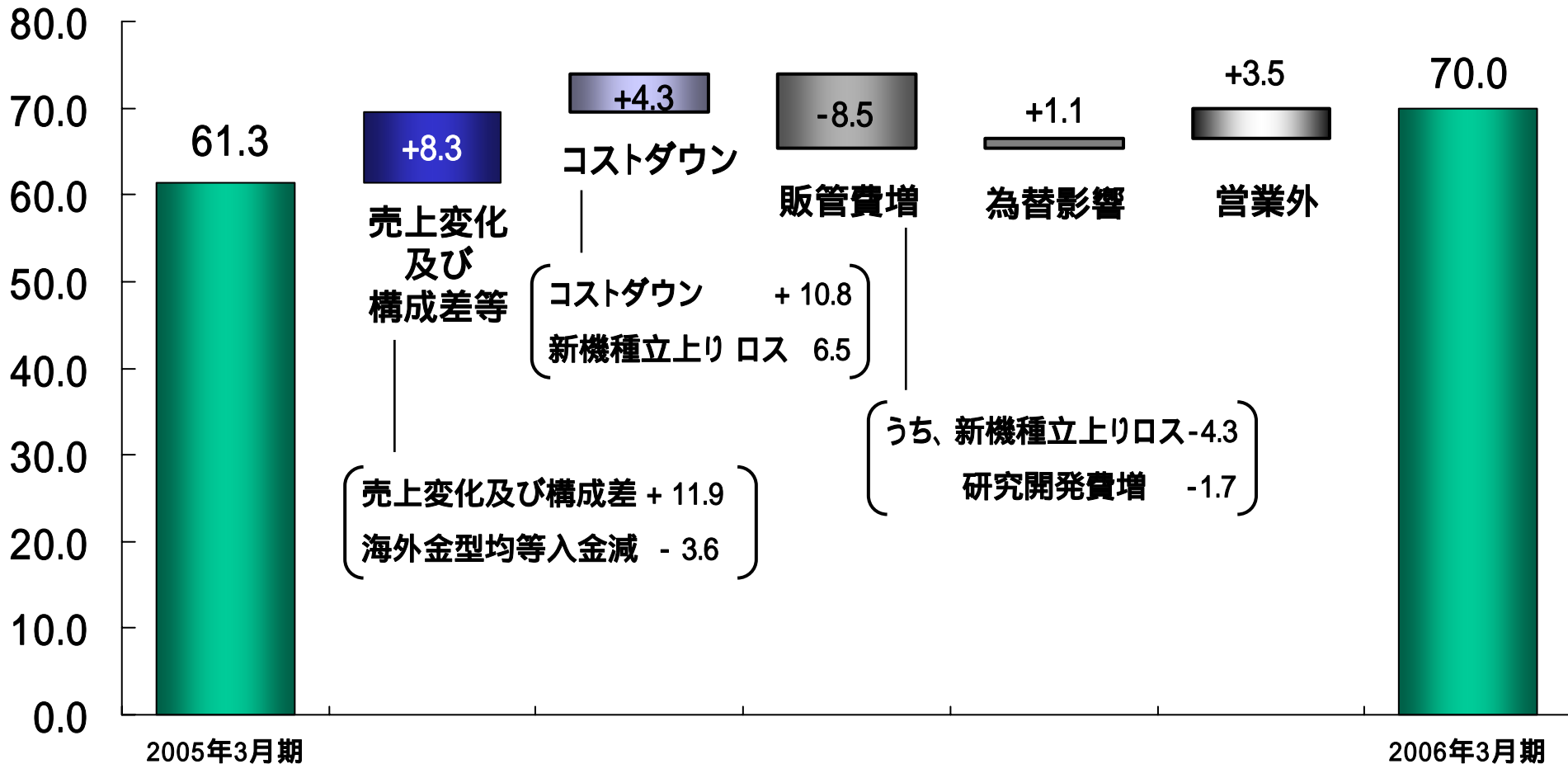
ポイント

部品事業	+ 86
・ 日本	+ 31
・ 北米	+ 29
・ その他(アジア)	+ 26
完成車事業	- 48
・ 台数減	- 84
(-13.6千台)	
・ モデルミックス	+ 36

2006年3月期 経常利益変化 (連結ベース)

売上高	2,762.5	+ 37.5	2,800.0
完成車事業	1,355.5	- 49.0	1,306.5
部品事業	1,407.0	+ 86.5	1,493.5

(億円)



代表取締役社長

大竹 茂

第9次中期経営計画

(2005年4月1日～2008年3月31日)

第9次中期計画のビジョン

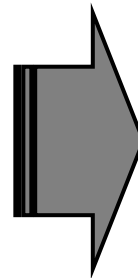
生産領域の体質改革を
全社的に展開し、競争力ある
企業体質を構築する

完成車事業

更なる体質強化による
自前 / 自立の足固めを行う。

部品事業

品質の向上と部品 / 完成車
共創展開による生産効率の
追及を行う。



長期ビジョン

お客様の満足のために
卓越した技術と
特長ある製品を供給する
提案型サプライヤー

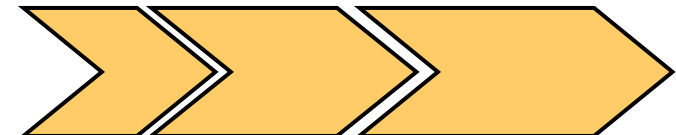
完成車事業

車体骨格部品の設計から生産
まで提案できる製造メーカーへの
展開

部品事業

フューエルシステム・コンポーネントメーカーへ
サントリーの世界トップ3メーカーへ

第9次中期計画
2005/4 ~ 2008/3



全社方針

競争力ある生産体質を構築し、収益力の強化を図る

- ◆ 完成車事業は、更なる体質強化による自前自立の足固め
- ◆ 部品事業は、完成車との共創展開による生産効率の追求
- ◆ お客様視点で信頼性の高い品質保証体制の確立

完成車事業

- ◆ 生産タフネス強化
- ◆ コスト削減

体質改革ラインの進化

極限の品質レベル追求

自前化に向けた人づくり

部品事業

- ◆ 生産体質向上
- ◆ 業容拡大への足固め

基幹事業の拡充

燃料タンク：樹脂タンクの量的拡大と環境対応

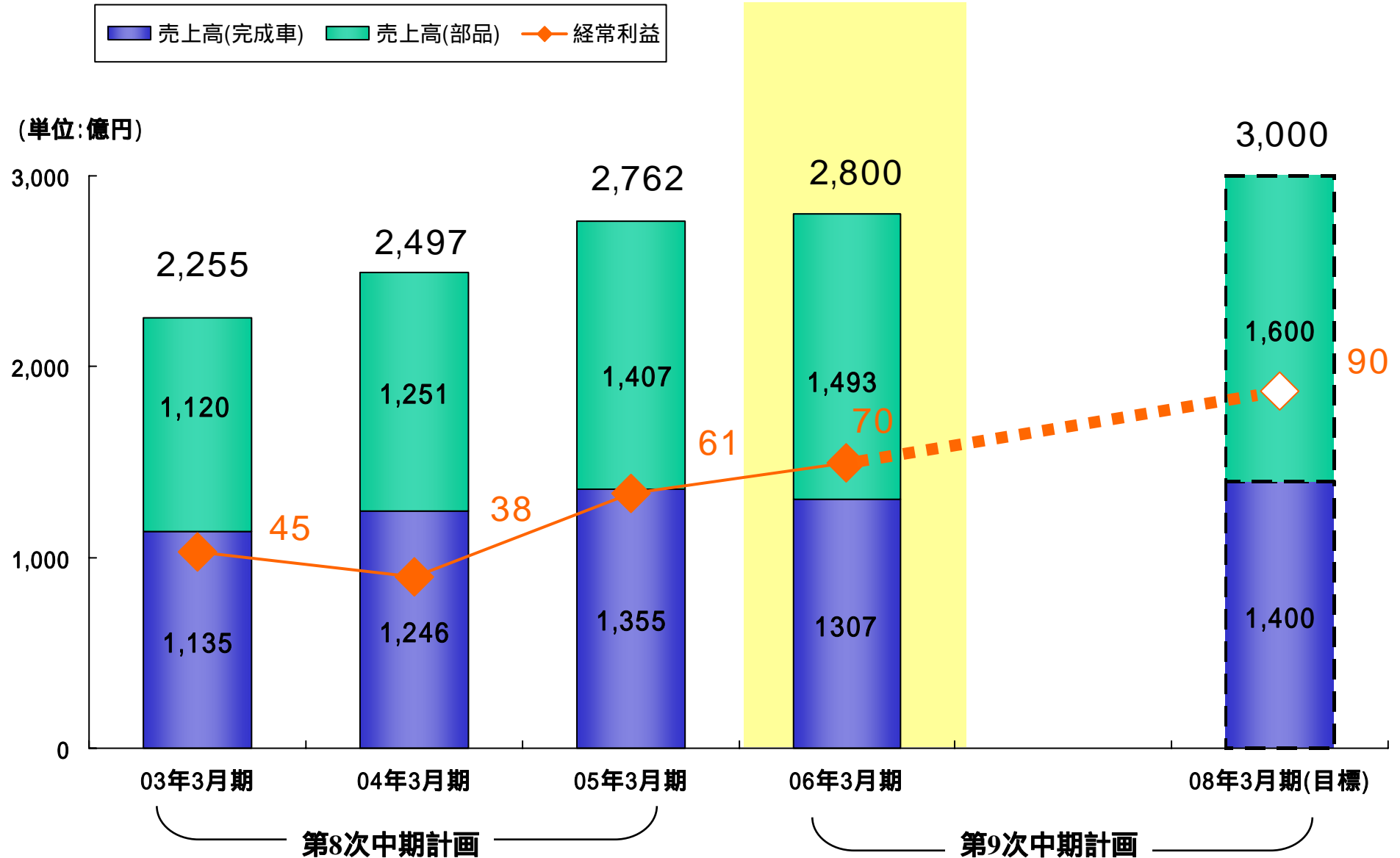
サンルーフ：ラインナップの充実とコスト削減

二輪事業：環境対応

販路の拡大

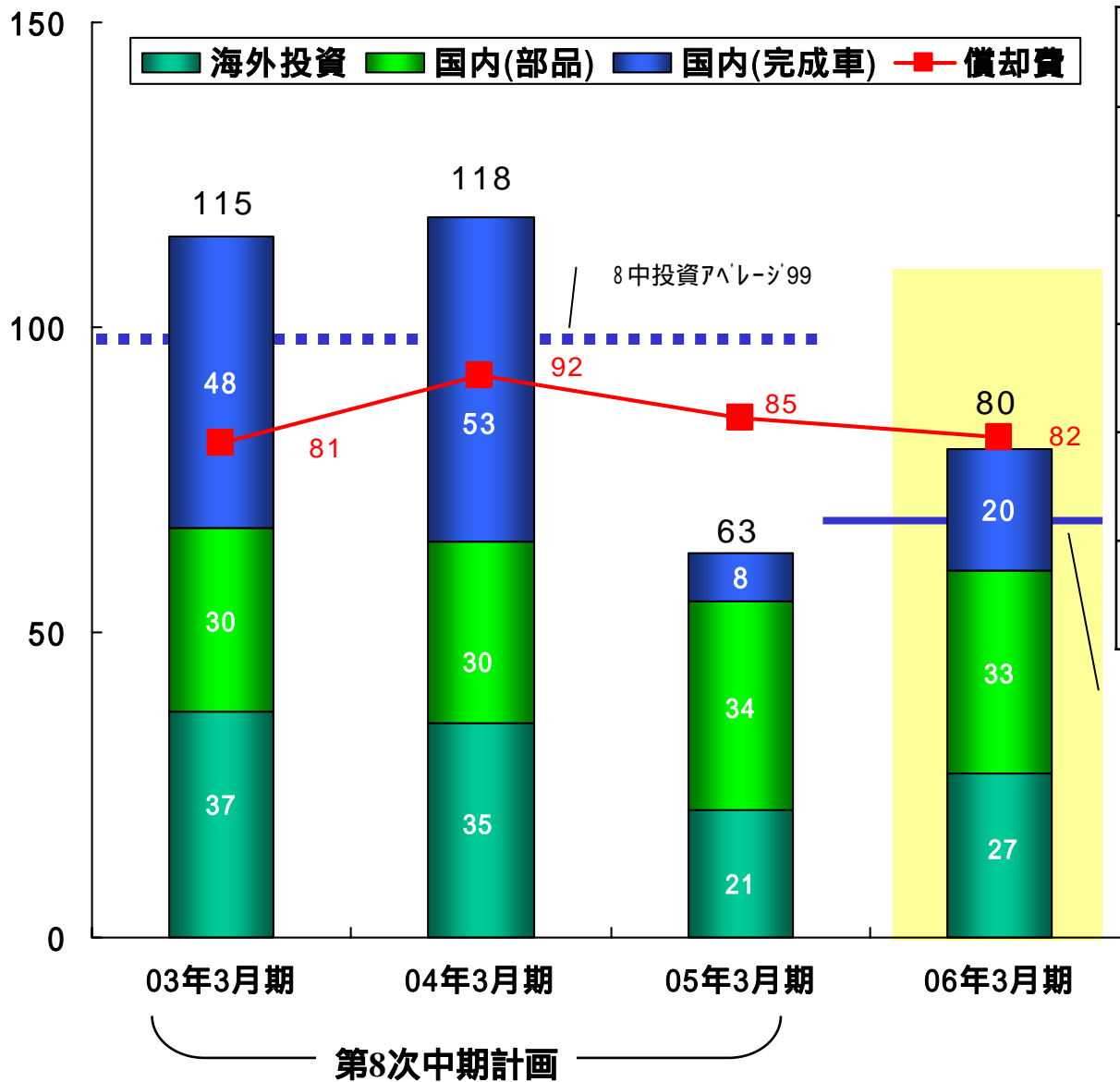
グローバルレベルでの人づくり

第9次中初年度見通し 売上高・収益(連結ベース)



9 中初年度見通し 設備投資状況

(単位:億円)



(単位:億円)

	8中平均	完成車	部品(海外)	計
体質改革	38	-	4 (0)	4
能力拡大	11	1	15 (14)	16
新機種	32	7	27 (9)	34
合理化/更新	18	12	14 (4)	26
合計	99	20	60 (27)	80

国内 53
海外 27

樹脂タンク	5
二輪	6
サンルーフ	3
樹脂塗装他	1

売上高

	2005年3月	2006年3月	対前年同期比 伸び率
連結売上高	1,355億円	1,307億円	- 3.6%

生産台数

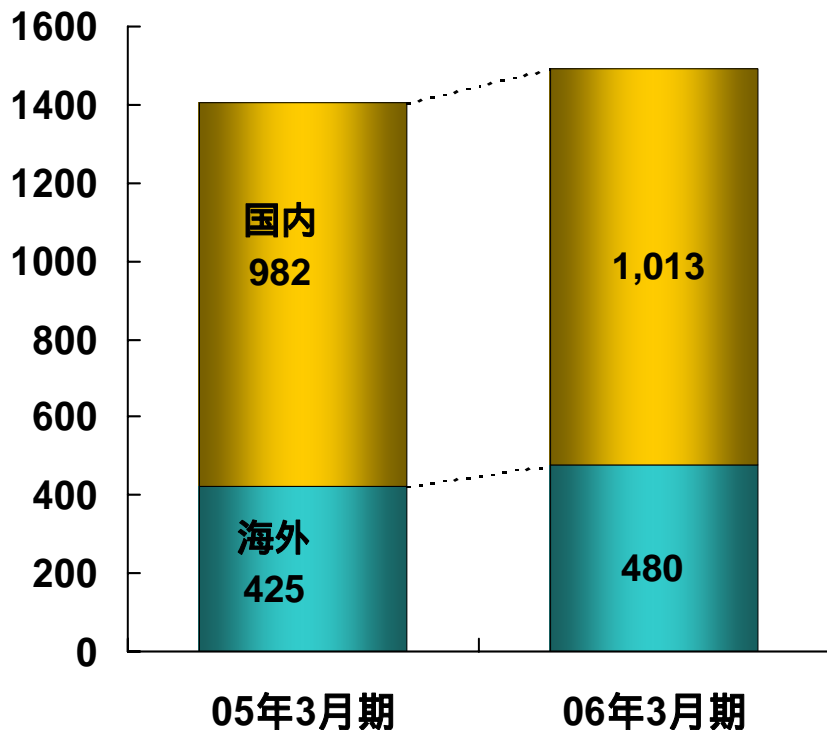
	2005年3月	2006年3月	対前年同期比 伸び率
生産台数合計	21.9万台	20.5万台	- 6.2%
ライフ	13.2万台	13.0万台	- 1.9%
アクティ	8.7万台	7.5万台	- 12.8%

売上高

	2005年3月	2006年3月	対前年同期比 伸び率
連結売上高	1,407億円	1,493億円	+ 6.1%

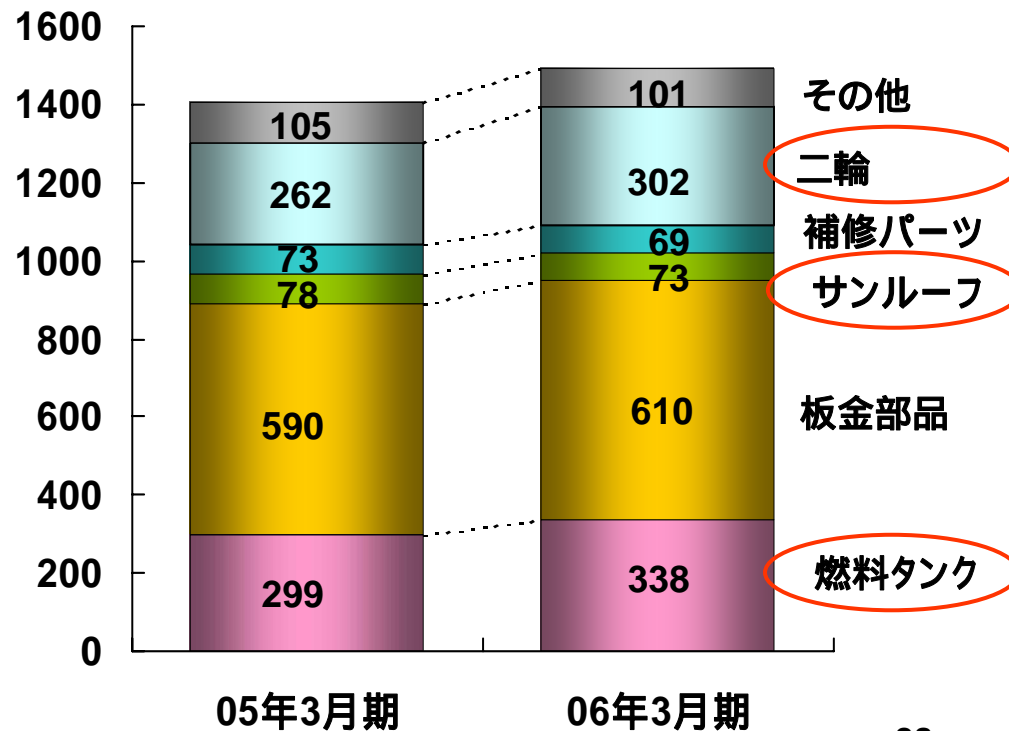
国内 / 海外区分

(売上高:億円)

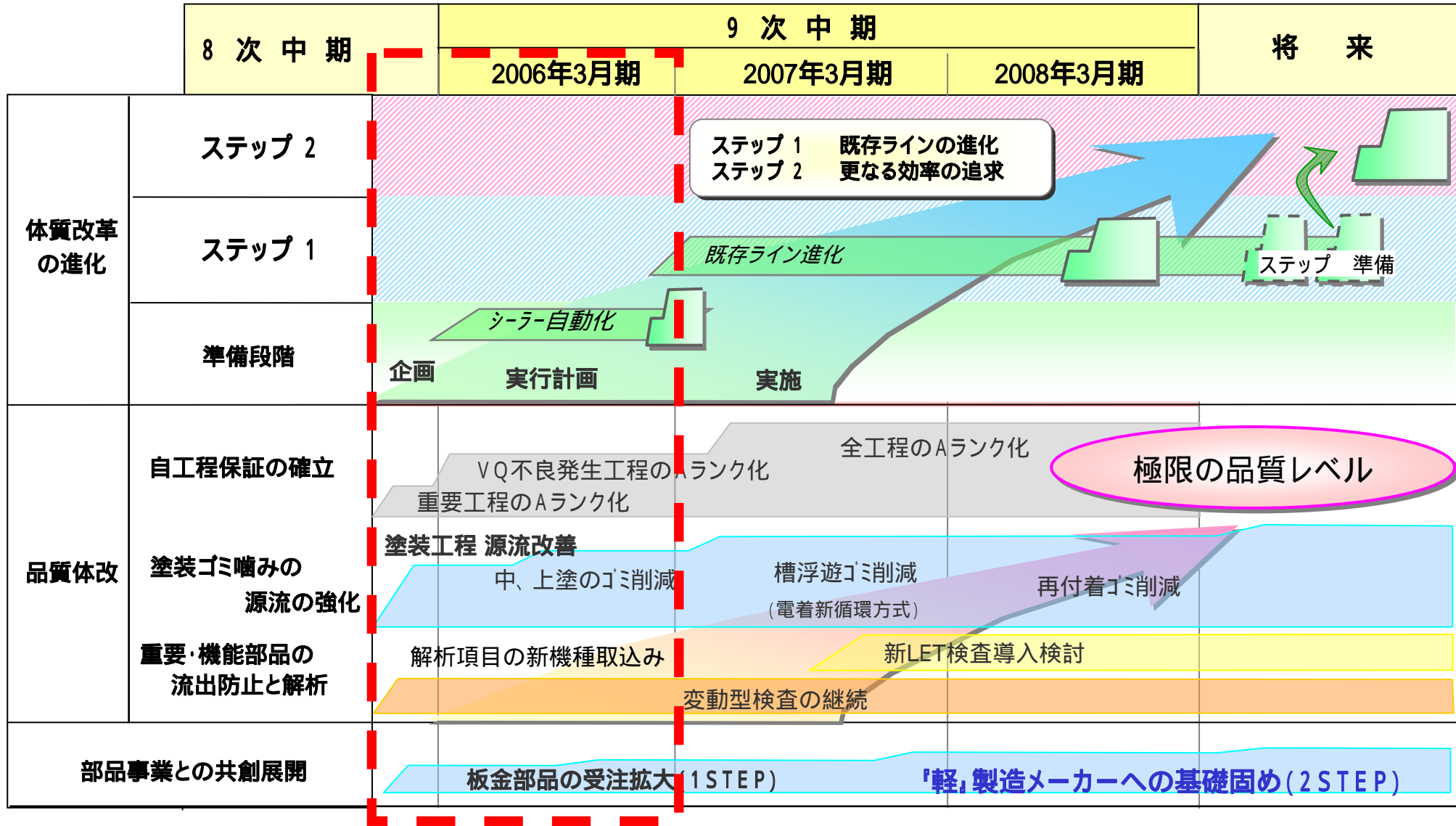


部品別区分

(売上高:億円)



完成車事業



部品事業

生産体質向上

業容拡大への足固め

- ~ 燃料タンク...PZEV対応樹脂製燃料タンク
- ~ サンルーフ...市場動向と生産推移
- ~ 二輪 ... キャタライザー生産予測
- ~ グローバルレベルでの人づくり展開

燃料タンク事業

自動車排ガス規制基準でもっとも厳しい、米国カリフォルニア州のZ E V規制に適合する

P Z E V仕様の樹脂製燃料タンクの開発に成功し、9月より量産を開始。

【エミッション規制適合の要素技術】

ポンプシールパッキンの
低透過化

バリアー材の
低透過化

ピンチオフ形状の
最適化

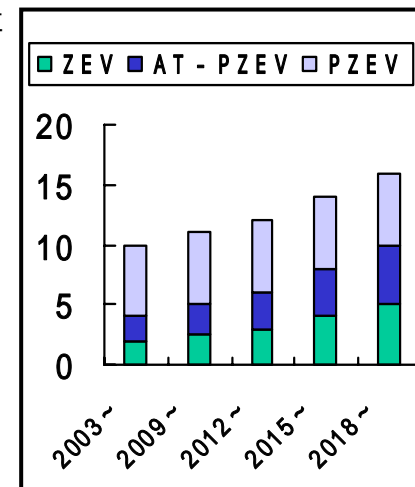
溶着子部品の
2色成形低透過化

生産開始時期:	2005年9月
生産数量:	2000台 / 月
特許:	4件出願中

ZEV法規概要...1990年加州において電気自動車導入推進の為に制定
 3カテゴリーがあり、~ZEV(ゼロエミッションビークル)...電気自動車、水素燃料電池車
 ~AT-PZEV...ハイブリッド燃料電池車、天然ガス車
 ~PZEV...現状の内燃機関型の自動車
 (HCの蒸散量、車全体で 350mg以下、燃料系で 54mg以下)

車両1台からの
 1テストにおける
 エバポ系HC
 排出量

	1995	1999	2003	2006
CARB (加州規制)	2g/2Hr	2g/day	強化エバポ (LEV-)	LEV- 0.5g/day
	SHED法		SHED法	PZEV 0.05g/day(燃料系) 0.35g/day(車全体)



北米エバポ規制対応の開発経緯

・規制動向

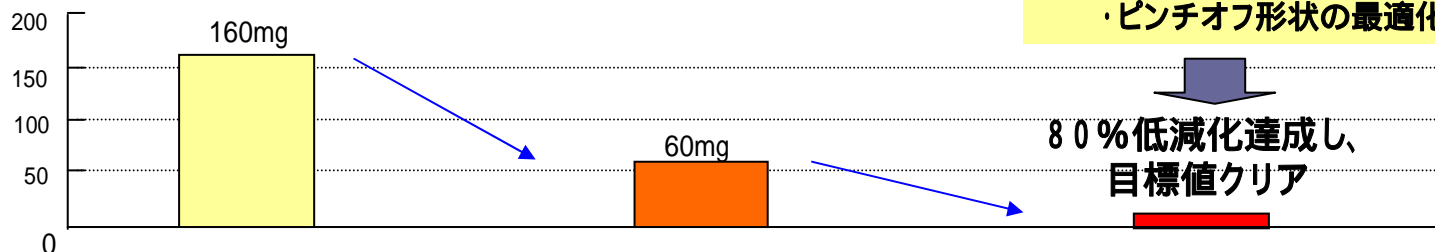


・技術動向

- 4種6層PFT
- ・バリア層のEVOH化
- 4種6層PFT
- ・バルブ類の2色成形化
- ・樹脂チューブ化
- 4種6層PFT
- ・EVOH材の高バリア化
- ・ネックパイプの2色材EVOH化
- ・新構造ポンプシール
- ・ピンチオフ形状の最適化

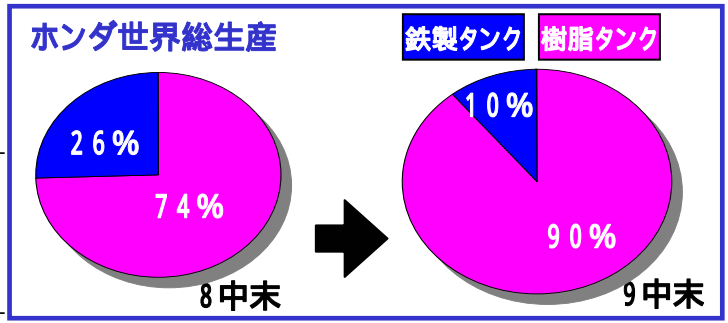
・性能動向

TANK COMP
 透過性能
 mg/day
 (SHED)

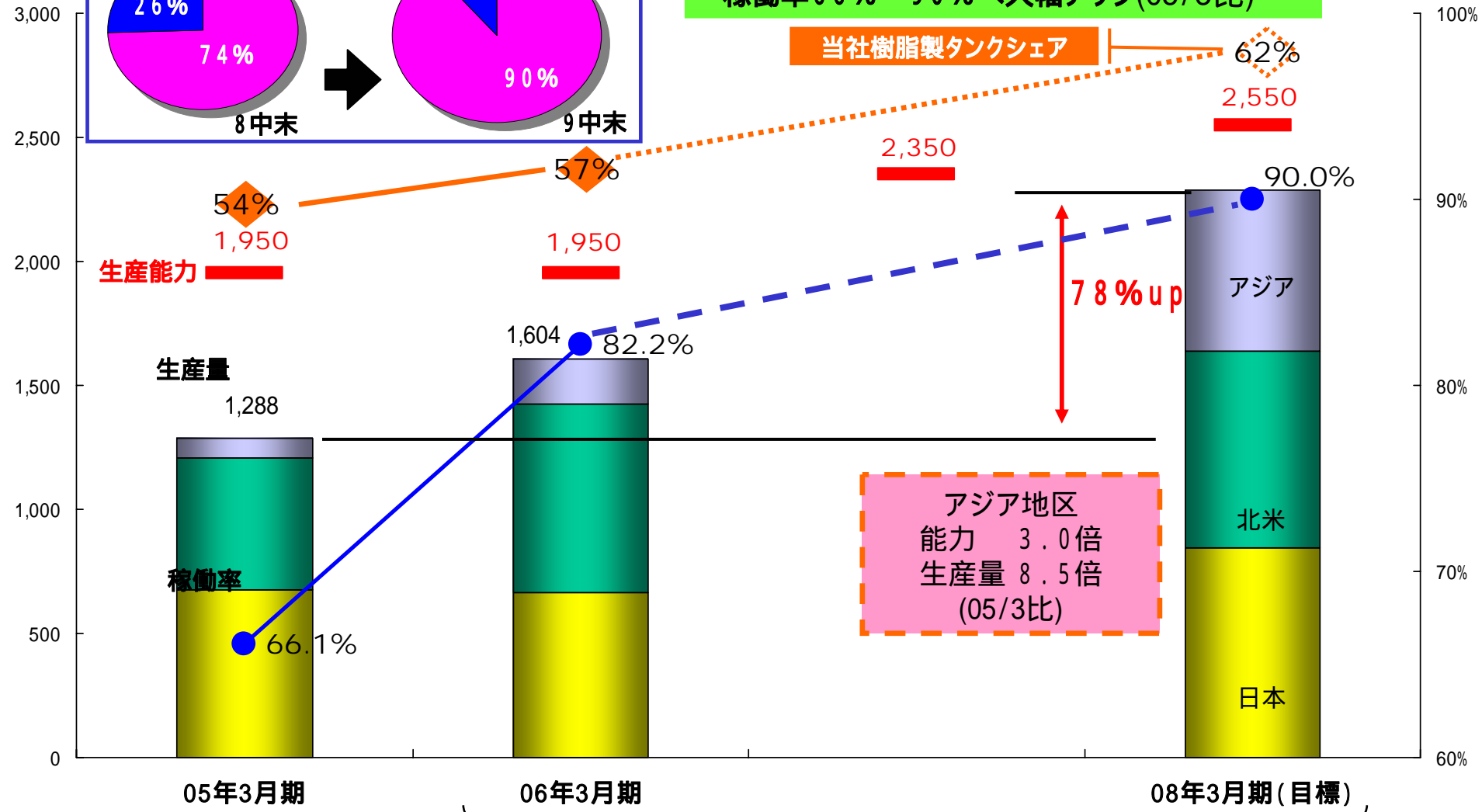


樹脂製タンクのグローバル拠点別推移

(単位:千台)



能力30%アップ、生産量78%アップ(05/3比)
 伸びの中心はアジア地区
 稼働率66% 90%へ大幅アップ(05/3比)



当社樹脂製タンクシェア 62%

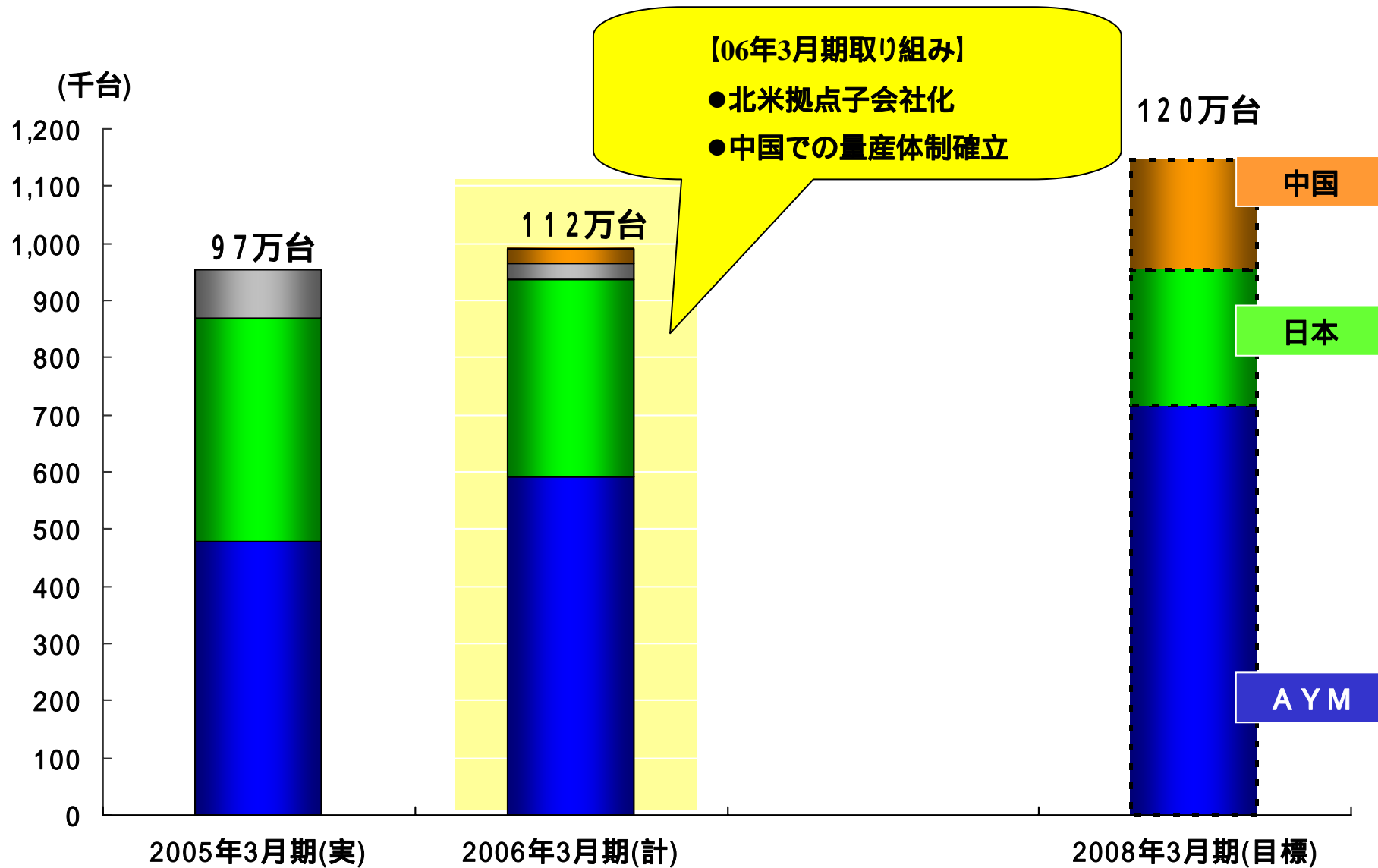
アジア地区
 能力 3.0倍
 生産量 8.5倍
 (05/3比)

第9次中期計画

サンルーフ事業



拠点別サンルーフ生産台数推移



第9次中期計画

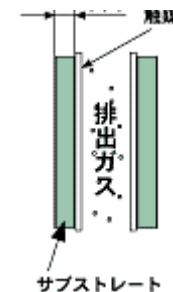
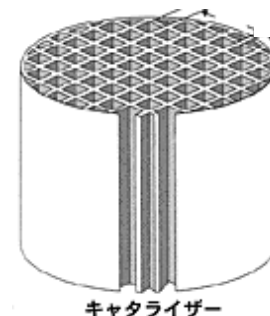
二輪事業

二輪事業 / キャタライザーの生産台数予測

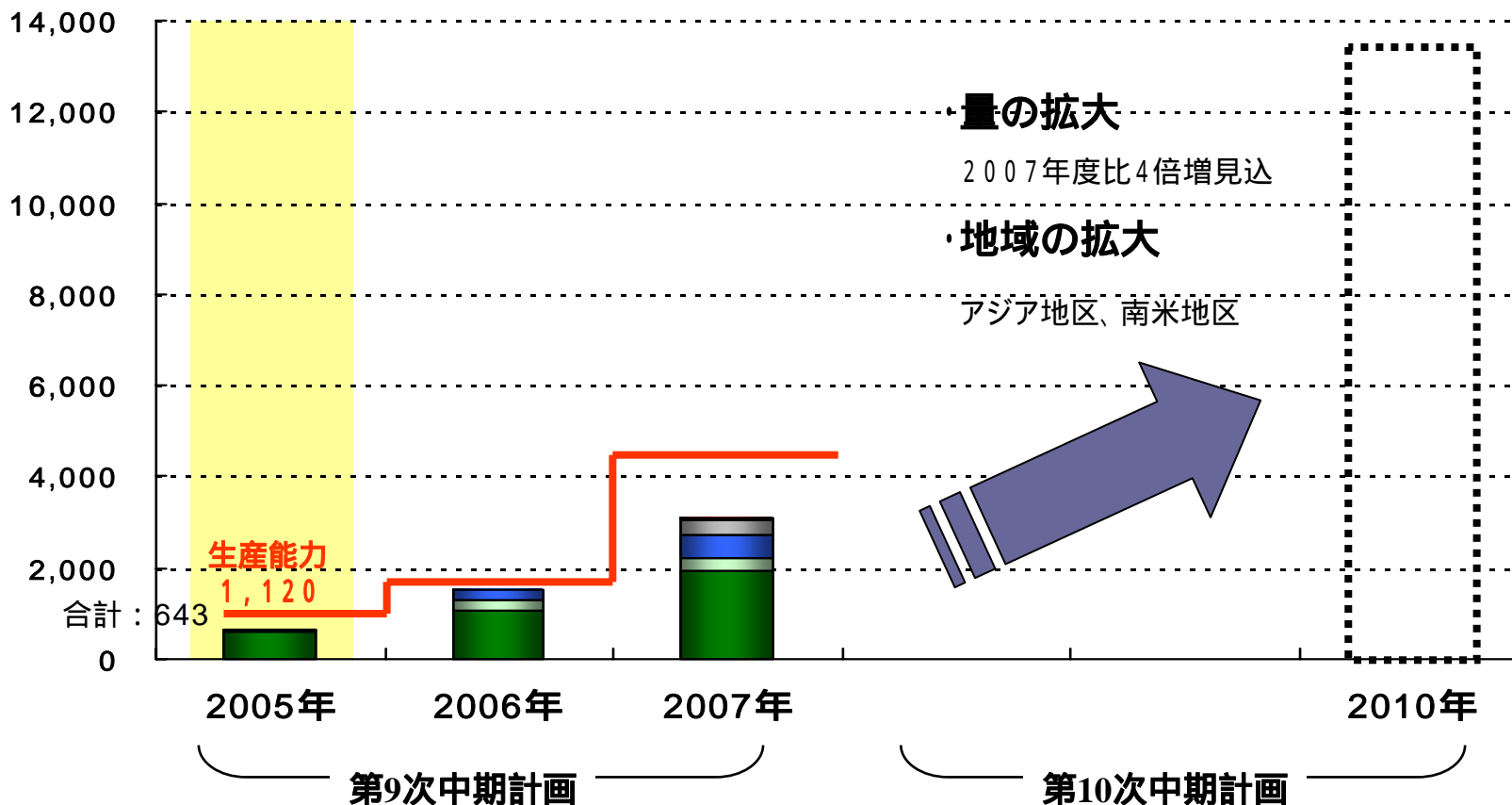
キャタライザーとは

排気ガス浄化ハニカム触媒のことで、機能としては有害物質を含んだ排気ガスを、フィルターを通すことにより、浄化した排気ガスとして放出する。

当社(合志技研)では、小型スクータ向けキャタライザーのメタル担体部の開発を行い、生産技術の確立ができた。独自の製法によるコスト競争力と高効率生産性に特長。



生産数動向 (千台)



グローバルレベルでの人づくり展開

第9次中期展開

基本的考え方
各本部との共創展開によって
グローバルハイスタンダード化を実現

Step 1

人材育成(M/G・品質・技術)
各拠点情報の収集と発信機能
拠点間格差の是正
製造管理の一元化

Step 2

人材育成(事業拡大PRJ人材)
現場のスキルアップ
高位平準化施策の実行・共有

Step 3

常時高位平準化機能の構築
中長期生産戦略の企画提案

目指す姿
PFTの健全な
拡大と成長

・客先に全世界均質化した高品質PFT供給

・PFT製造、管理プロセスの常時高位平準化

2006年3月期

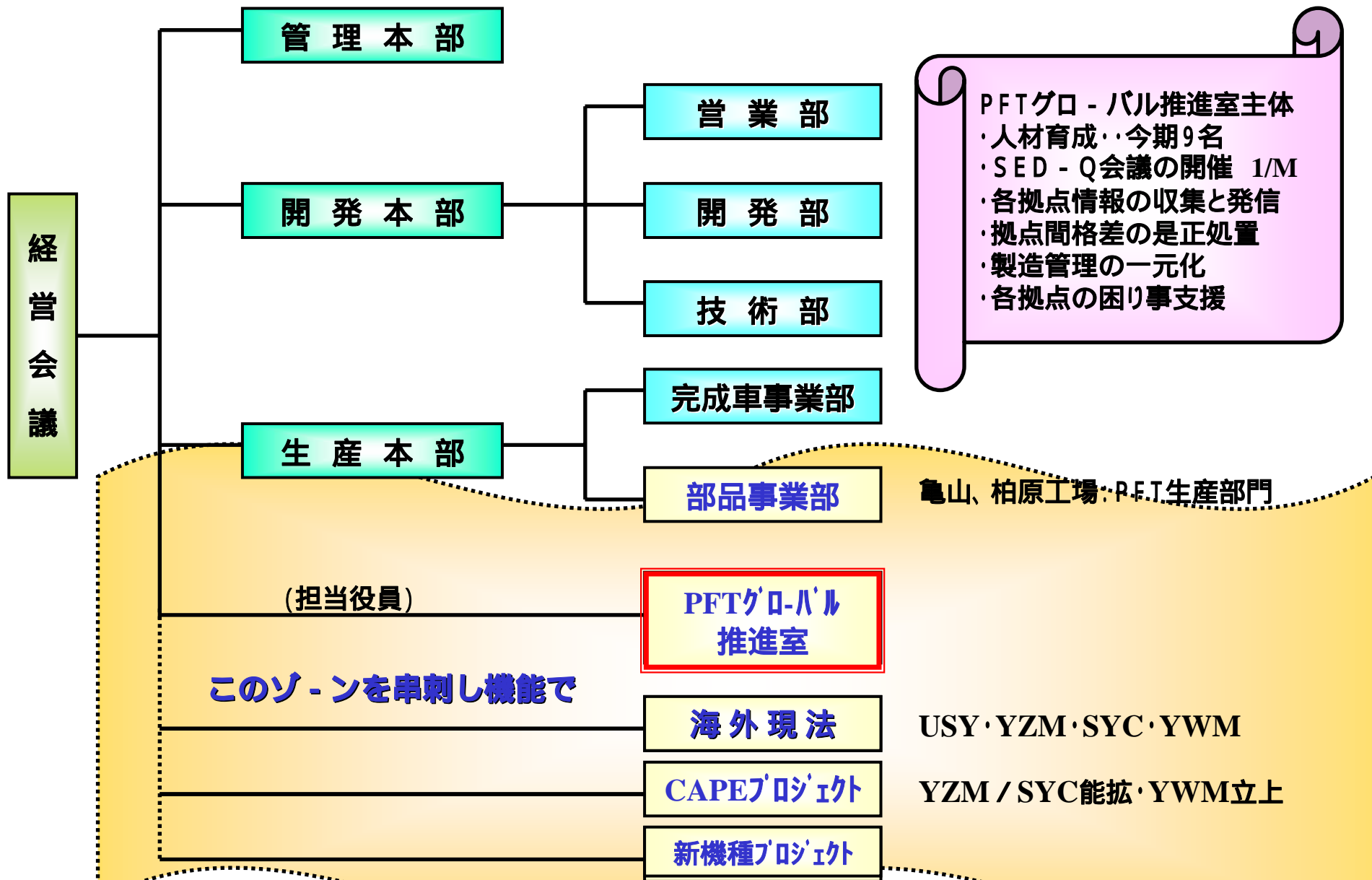
2007年3月期

2008年3月期

10中

第9次中期

PFTグローバル推進室の体制



拠点別に活躍する人材育成

- ・製造品質・製造技術者育成
- ・各拠点、困り事支援展開

生産環境の整備

- ・各拠点管理項目統一と情報の一元化
- ・グローバルな情報収集と整理発信機能
- ・情報交換によるQC Dマザーレベルの展開

品質・生産の高位平準化

- ・全拠点均質化した高品質PFTの安定供給
- ・新機種立上げ推進状況把握と共創展開

長期戦略の企画提案

- ・増量対応、生産体質強化の企画立案
- ・PFT長期戦略企画
- ・PFT統括機能の構築

本資料のうち、業績見通し等に記載されている各数値は、現在入手可能な情報による判断及び仮定に基づいて算定しており、判断や仮定に内在する不確定性及び今後の事業運営や内外の状況変化等による変動可能性に照らし、実際の業績等が見通しの数値と大きく異なる可能性があります。尚、上記の不確定性及び変動可能性を有する要素としては、主に以下のようになります。

- ・主要市場における経済情勢及び需要の変動
- ・為替相場の変動
- ・主要市場における貿易規制等の各種規制
- ・主要市場における政治情勢
- ・当社が事業活動を行う上生じる当社の責めに帰すことのできない様々な障害